

柔道ベルギー国際大会で優勝  
 48kg 級で世界を目指す

はるな  
 浅見 八瑠奈さん (大平)



「モットーは、相手より先に技をかけること。」と力強く話す浅見八瑠奈さんは、2月6日、ベルギーで行われた柔道国際大会に出場し、48kg級で優勝の快挙を遂げました。ヨーロッパを中心に約40人が出場したこの大会では、予選を含め、1日6人と対戦。「初めて国際大会に出場した時は、思うような試合ができませんでしたが、今回は緊張することなく臨めました。時間いっぱい粘る柔道が信条の浅見さん。試合前は、「絶対勝つぞー!」という強い気持ちで集中していました。

特に印象に残っているのは、準決勝のキューバの選手との対戦で、今までにない組み方の相手に戸惑いながらも、有効を奪って勝利しました。優勝の知らせを聞いた家族や友人から届いた祝福のメールや、空港で出迎えてくれた新田高校柔道部の仲間たちの姿を見て、優勝した実感がわいてきたそうです。

浅見さんが柔道を始めたのは、3歳ごろ。物心がつく前から柔道に親しんできました。「今まで続けられたのは、応援してくれる人がいたから。」とやめたいと思ったことは一度もないそうです。小学生の間は伊予柔道会に所属し、週3回の練習を続けました。その才能は、小学生時代から開花し、愛媛県青少年柔道



▲伊予柔道会で、後輩たちに交じり練習に励む浅見選手。(2月17日撮影)

大会の学年別の試合では、6年間で優勝を逃したのは、たった一度だけ。その後も全国の大会などで輝かしい戦績をあげてきました。

叔父で伊予柔道会師範の河野誠司さんは、「浅見さんは、練習の時に全力でぶかってくる努力の選手。その姿を見ていて、全国でもトップクラスになるだろうとは思っていませんでした。しかし、ここまで早く実現するとは、思わなかったですね。」と話します。

中学校でも柔道部に所属し、その後進学した新田高校へは、自転車通学で1時間かけて通学。柔道部の監督をつとめる父・三喜夫さんのもと、厳しい練習を重ねました。「小さいころは気持ちだけで勝ったのですが、だんだん技術も必要になってきました。」そんな中、技がかからなかったり、今まで負けることがなかった相手に負けてしまったらというスランプの時も。しかし、「練習した分だけ結果がついてくる。練習あるのみ。」と何度も乗り越えてきました。

今年の3月に新田高校を卒業し、現在は、山梨学院大学に進学している浅見さん。強豪校で、まさに柔道漬けの毎日を送っています。同じ階級には、ヤフラちゃんこと谷亮子選手もあり、手強いライバルは多いですが、「勝った時が一番うれしい。」と笑顔で話す19歳は、身長152cmの小さな体に強さを秘め、夢の舞台オリムピックで金メダルを目指します。